

みえじびか

みみより

新聞

平成 27 年 8 月 NO.21

発行：三重耳鼻咽喉科 荘司邦夫・坂井田麻祐子

津市観音寺町 445-15

ホームページ：<http://www.miejibika.com/>

携帯：<http://www.miejibika.com/i/>

子供の中耳炎には、熱や痛みが出る「急性中耳炎」と、痛みは出ませんが、聞こえづらくなる「滲出性中耳炎」があります。滲出性中耳炎は、大人にも起こりますが、小さな子供の時にかかる、治るのに時間がかかる割には、周囲から比較的気が付かれにくい、知らず知らずのうちに鼓膜に変化が起こり、大人まで傷跡を残すこともあります。今回は、この「滲出性中耳炎」について、お話します。

滲出性中耳炎は、鼓膜の奥にある耳のお部屋・中耳に水がたまる病気です。6歳以下の子供さんや、ご年配の方に起こりやすい病気です。子供さんの場合、鼻かぜやアレルギー性鼻炎がきっかけで、鼻水が多く、鼻づまりが続くと起こりやすくなります。これは、耳と鼻が、「耳管（じかん）」という管でつながっているため、鼻水が多いと鼻から耳へ鼻水が逆流して中耳に水がたまり、また、鼻が詰まっていると、耳管もつまり、中耳が陰圧状態となって、中耳の壁から水がしみ出してたまります。耳に水がたまっていますので、聞こえにくい感じがし、山に登ったみたいな「ボーン」とふさがった感じがします。自分の声が耳に響いて、

とても心地が悪いです。この状態が両耳に起こると、かなり聞こえづらくなるため、子供達はテレビに近づいたり、何度も「えっ？」と聞き返すことが増えます。これが滲出性中耳炎のサインです。しかし、意外と日常生活の中でこれらの症状に気が付いてあげられないことがあります。テレビに近づくのは夢中になっているから、聞き返すのは、遊びに夢中になって気が付かないから、と大人が思い込んでしまうと、何ヶ月も中耳の水を放置してしまうことになる場合があります。

(中耳のイラスト：詳細は院内配布の新聞をご覧ください)

聞こえにくい状態が続くと、子供達は情緒不安定になり、イライラしたりします。言葉を間違えて覚えたり、言葉の習得が遅れることもあります。保育園や幼稚園で、会話について行けなかったり、友達とトラブルになることもあるかも知れません。小学校に入ると、授業をきちんと聞かないといけなくなるので、それまでにはきちんと治しておきたいものですね。

早く治しておきたいもう一つの理由は、鼓膜に異常な変化が起きてしまうからです。中耳に水が溜まった状態が長く続くと、中

耳内が陰圧になる人があります。陰圧になると、鼓膜が徐々に内側へ引っ張られ、ちょうど、レンジでご飯をチンしたときに、やり過ぎてラップが凹んでしまったような状態になります。鼓膜が凹んだ状態が続くと、鼓膜はどんどん奥へ引っ張られ、ぺらぺらに薄くなります。薄くなってしまった鼓膜は、人によっては大人になっても元には戻りません。こうなる前に治してあげないといけません。

しかし、滲出性中耳炎は、痛みも無く、小さい子供さんは自分で聞こえにくいことを訴えることは少ないので、気が付かれにくいのが難点です。隠れた滲出性中耳炎をキャッチする一つのよい機会として、三歳半検診があります。検診前に送られてくる資料の中に、耳に関するアンケートが入っています。この中に、聞き返しや言葉の発達に関する質問や、実際に6つの絵の名前を、親がささやいて聞こえるかどうかのテストが含まれます。耳鼻科医がアンケートを見て、滲出性中耳炎の疑いがありそうな方には耳鼻科相談を受けて頂き、必要があれば耳鼻科受診をお勧めしています。

実際の治療は、いろんな方法があります。基本的には、3ヶ月程度は鼓膜のチェックだけをします。自然によくなることあるからです。しかし、3ヶ月経過しても全く水が抜ける様子がない場合、鼻の調子を整えつつ、水を引きやすくする薬を2週間~1ヶ月使用し、それでも改善なければ「鼓膜切開」をして、中耳の水を抜き出します。「鼓膜切開」とは、鼓膜の表面に痛み止めをした後、1~2mmの小さな穴を開け、水を吸引除去する処置です。鼓膜は再生能力がとても高いので、通常は1日か2日で切開した穴が閉じます。これは善し悪しで、滲出性中耳炎の治療としては、なるべく長期間中耳に空気を入れておきたいので、切開

だけでは治りきらず、再発する人もあります。何度か切開しても治らない場合や、先程述べました、鼓膜が強く引き延ばされて凹んできた場合、「鼓膜チューブ挿入術」を行います。小さい子供さんは、動くとも危ないので、全身麻酔での手術となり1~2泊の入院が必要となります（主に三重病院へ依頼）。小学生以上であれば外来で可能です。チューブは、直径1mm程度の小さなもので、一度挿入すると、鼓膜が押し出すまでの約半年間は鼓膜に刺さったままの状態になります。この間は、中耳内は適切な気圧の状態となり、空気が入って聞こえは良好です。入浴やプールも特に問題ありません。ただし、チューブもいいことばかりでは無く、人によっては、鼓膜と異物反応を起こして、耳だれが出る、肉芽（炎症性の赤い腫れ物）が出来る、穴が残る、鼓膜が白く硬くなる（石灰化）、などが起こる場合があります。このため、治療の方針は、とても慎重に、よく相談させて頂いてから決定します。

最近、当院で始めた新しい治療としては、オトヴェントという、鼻で膨らませる風船の治療があります。最年少4歳から可能な方法で、医療用風船を鼻息で膨らませ、3秒ほどキープすることで、耳管から中耳に空気が送られます。これを毎日続けることで、滲出性中耳炎の改善に役立ちます。中耳に水は溜まっていなくても、鼓膜が強く凹んできた人にもお勧めです。ただし、即効性は無く、緩やかに作用するため継続が必要であること、鼻かぜ、アレルギー性鼻炎の時は使用できないことなどの注意点はありますが、比較的安全に行える治療法です。ご興味のある方は、使用方法がYou Tube（「オトヴェント」で検索）で配信されておりますので、ご覧ください。